

宮崎神宮

宮崎神宮は、宮崎県における神道の主要な聖域です。日本初代の天皇、神武天皇を祀っており、伝説によれば、彼は東方に旅して敵対する豪族を制圧し、現在の奈良県に政府を樹立する前に、周辺地域を統治していました。神武天皇は死後神格化され、現在宮崎神宮が建つ場所に祀られたとされていますが、その若い頃の歴史はあまり明らかになっていません。この神社は鎌倉時代（1185～1333）の記録に初めて登場しますが、1868年の明治維新後まで目立つことはありませんでした。明治天皇の新政府（1852～1912）は、天皇家の起源に触れる古代神話や伝説に関連した場所での参拝や、その維持管理を奨励しました。現在の建物は1907年に建てられました。突き出た装飾が施された屋根のデザインは、古代神社建築の神明造からの借用です。より一般的なヒノキではなく、日本のスギで建てられており、その構造は、東京の明治神宮も手がけた建築家、伊東忠太（1867-1954）が設計しました。25ヘクタールの境内には、本殿に加えて他のいくつかの神社、庭園、宮崎県総合博物館があります。